

工場経営トップが
6ヶ国の今を語る

基調講演
チャイナプラスワンのこれから

小林恵介
ジェトロ海外調査部
アジア大洋州課長代理

アジアのアパレル生産新時代を担う



予想を上回る260人が参加、アジア生産への関心の高さが浮き彫りになった

中国レベルへ高まる生産性

8面からの続き

力を入れていた。常川 現在直線で一人当たり月産シャツが二五枚、パンツが六本。同じ仕様で比較すると中国の三割減くらいと聞く。工場が赤字を続けるわけにはいかないのでも、いろいろなコスト削減を打って黒字化を目指している。ラオスは土地柄から電力発電が盛んで、東南アジアのバッテリーと言われ、我々もすべて電気工具を使っており、生産コスト面で助かっている。グリーンなエネルギーという点では、日本から送金するベトナムがほぼ半々。一

が、ミャンマーの生産性は中国に比べてもやわやわはまだまだ発展途上で中国と比べて六〇％くらいは低い。石黒 ミャンマーの工場経営は五年半ばかりの経験から黒字化し、大きな利益が出るわけではなかった。政井 二年は中国とベトナムがほぼ半々。一

生産性は中国の八〇％くらいまで上がっている。長尾 生産性は中国の二倍、品だ。政井専務と同様に管理育成も課題で、企業デシユのメリットが絶対出ていると思うが、二つ目は物流面で、深海港が近いので、ベトナムや香港で積み替えており、どうしてモータードームが長くなる。三つ目は欧米の圧力でユニオン職に向年代の人が少ない。人材不足は必ずしも直

中国とアジアの比率が逆転

昨年年度は中国が五〇％、ミャンマーが二〇％、ベトナム二〇％、インドネシア一〇％、インドネシア一〇％、またベトナムの協力工場が五〇％が二〇％、タイが七〇％の構成になっている。政井 カンボジアに進出した二年は九五％が中国生産だった。一六年度は四〇％、カンボジアが三〇％の構成

高い。半分くらいは人が入って替わっている。一生懸命働いてくれる子もいて徐々に好転するだろうが、もう一世代後を雇用する時期に進出した方が良かったかなという方もいる。またタイとラオスは八〇％くらい言葉が似ているためタイに出稼ぎに行く人が多い

基調講演 チャイナプラスワンの現状とこれから

小林恵介ジェトロ海外調査部アジア大洋州課長代理

口になり、対象品目数は一年にASEAN6が九一・一〇％、ほとんどの品目が対象となった。CLMVも一年四九・三〇％だったが、一五年には九〇・八〇％に拡大、域内の貿易の自由化はほぼ終わったと語る。

人気集めるベトナム

「後方関連効果」で部材拡大

ASEAN加盟十カ国のうち「6」と呼ばれる六カ国(インドネシア、シンガポール、タイ、フィリピン、ベトナム、マレーシア)では、すでに二〇一〇年に一部例外品を除いて全品目の関税が撤廃されている。一八年は〇〇年の三五〇からほぼ横ばい。輸入ではむしろ低下が見られている。一方、中国からASEANへの輸入の割合は〇八年から急激に高まってきている。一〇年代前半から、

ここで、水平分業に近い形が多い。縫製などの労働集約型産業では、カンボジアやミャンマーにチャイナ・プラスワンとして進出している。またタイ、インドネシアなどは市

厚な方たちで、設備も車のクラクションを鳴らさないほど。しかし組織やチームをまとめた流れ作業は得意。ベトナムはマシンとオペレーターが一体化するよう動きを速くするが、ラオスは残念なところがある。その代わり手先は器用。だから中高級シートの商品をやっている。付加価値をもうけられるような設備投資もしている。

管理者育成がカギに 今後も拡大を目指す

が、欧米は安心・安全を重視し、特に建築系が重要になる。日本の大手小売も最近同じことを言われるようになった。そのため新工場を建設し、アユート(バンラデシユ)における火災予防及び建設物の安全に関する協定、アライアンス(バンラデシユ労働者の安全のための同盟)を取得する計画だ。現在三千人の工場がある同国は、二〇二〇年を目標に二千人規模の新工場を作り、次の時代に対応できる準備を進めていく。

対中国の投資金額を対ASEANが上回っており、それだけ日本がASEANを重視していることが分かる。二〇〇年代前半は

海外進出先と言えは圧倒的に中国。しかし〇四年の対日暴動など政治的な要因やコスト上昇などを機に、中国進出が減少した。その後、展開に有望なアジア諸国を企業は探し

ベトナムの地方の方が賃金が安く済む可能性がある。チャイナ・プラスワンの筆頭格であるベトナムは、部材の調達に

